

今、何よりも必要なもの

それは「愛」です

教団代表 内山 勝



「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおわからずです。」（第一ペテロ四・7-8）

コロナ禍の混乱が続く中で、8月を迎えました。例年この時期に行われる各地の聖会がほとんど中止となる中、「とにキャン」、「YS」の集まりがオンラインで開催されると聞きました。果敢な挑戦から新しい可能性が生まれることを期待して祈ります。

この原稿を書いている今週は、熊本をはじめとして各地で記録的な豪雨による災害のことが連日報道されています。「50年に一度」と言われる激しい雨が、ここ数年何度も降っており、地球温暖化の影響を強く感じます。また海外ではバツタの大量による被害も報道されています。ペテロが言う「万物の終わり」がいよいよ間近であると感じさせられます。だからこそ、ペテロの強調点に注目しましょう。終わりが近いからこそ、互いに愛し合うことに集中しなさい、というメッセージです。しかも、「何よりもまず」「熱心に」取り組むようにと勧められています。

なぜでしょうか。終わりの時代になればなるほど、人々の愛が冷ややかになるからです。さまざまな困難が降りかかってくると、お互いに余裕がなくなり、自

分の事しか考えられなくなります。教会の中でもそれは同じでしょう。イエスさまの心が失われてくると、自分の権利や正しさを主張し合うようになり、互いに裁き合う傾向が強くなります。その結果、より弱い方が傷ついてしまうこととなります。それは、教会にとって不幸なことであり、主が最も悲しまれることです。このような今だからこそ、互いに愛し合うことに、優先的に、熱心に、取り組む必要があるのです。

では、具体的にどうすれば良いのでしょうか。

● コロナ禍にあつて、礼拝に共に集まることができない方々を覚えましょう。離れていても同じ主を礼拝しているのだという一体感を、主によって育んでいただきましょう。顔と顔を合わせて会うことができなければ、手紙やメール、LINEなど、いろいろな方法で繋がります。意図しなかったちよつとした言葉かけが、弱っている方に励ましとなったりします。

● こうした環境下では、不特定多数の方々を教会に招いて特集（イベント）を行うことが困難です。それなら私たちは、再度自分の身近にいる方々に目を向け、関係を深める時としてはいかがでしょうか。家族や学友、会社の同僚など、毎日会う人に心を用い、その方々の祝福を、毎日心から祈ることから始めましょう。

● 身近で疎遠になってしまった方を思い出しましょう。主の恵みをいただいて和解し、関係を修復することができたら、どんなにすばらしいでしょう。

目次

- 今 必要なもの それは「愛」です……内山勝……1
- 組織改革に向けて、検討委員会、今年のYSは……2
- 教団運営委員会、信徒局エリア制、若手牧師研修会……3
- 海外トピックス、国内教会局、選挙管理委員会……4
- 新型コロナウイルスと教会、教会の取り組みは……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

第75次年会から2年間で

組織改革検討チームへの期待 今後直面する課題を検討 将来の展望を開く方策を

教団代表 内山 勝

次代を担って行かれる先生方に本気で考えて頂きたいのです。2030年問題が色あせて見えるほど、今、新型コロナウイルス問題で日本中が揺れています。教会も大きく変わらざるを得ないでしょう。10年後までも見通すことはできないでしょうが、想定できない変化にも対応できるような、柔軟性を持った教団となるために、大胆な改革案を出していただけるよう期待しています。

▼いろいろな地域を代表して
これまでありがちだった関東中心の人選ではありません。コロナ禍の産物として、オンライン会議が盛んに行われるようになり、たので、こうしたツールを駆使して、各々の地域ならではの感覚を考慮しつつ、多くの方に支持していただけるような改革案を練っていただきたく願っています。

▼女性の視点を大切に
女性の先生お二人を任命させていただきました。これでは少ないとお叱りを受けるかもしれませんが、従来の教団運営は男性中心であったと思いますので、女性の感性を十分に配慮した改革案となることを願っています。

▼2名の先生をアドバイザー的な立場として選びました。良いバランスが取れるよう願っています。検討チームには、総会で積み残した課題全般を扱っていただきます。具体的には、教団組織のスリム化、選挙制度の問題などです。皆さまのお祈りをお願いします。

組織改革検討チーム発足

これから何に取り組む?

過去の改革を 学び始めました

委員長 佐藤信行

「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」(箴言二五5-6)

今年年会において、組織改革検討チームの任命を受けました。2年間、第三者的な検討機関として中立的な立場からの意見をこのことですが、当初、全く考えてもいなかった任命に何から手を付けてよいのか分からない状態でした。

しかし組織改革の検討自体は、これまでも種々の議論がなされて来ましたが、まずそれらを知り理解し、整理する所からスタートしています。最近の議論の内容を辿るだけでも、これらの問題の複雑さ、繊細さを改めて感じています。現状と将来を正直に見つめて、チームの中で良き気づきを与えられればと願っています。

今後の具体的な検討の手順や会合の頻度などは、これからメンバー内で話し合っ決めて、進めて行く予定です。主が備えてくださっているまっすぐな道を、共に辿ることができるよう、お祈りにお覚えいただければ感謝です。

8月15日のユース・ステーション

初めてのオンライン集会です 距離を超えて心を一つに



越谷教会 川村和臣

◆今年もオンラインで

すでに案内がなされていますが、8月15日(土)にユースステーションのオンライン全国集会が予定されています。当初ホテルハウスでの開催予定でしたが、コロナ禍の中、感染拡大の懸念を踏まえてこのような対応をしました。

例年のような交わりができなくなりながらも、いままでも距離や日程などの都合でなかなか参加できなかった青年たちにも恵みが届くことができるかと期待しています。

◆意義深いテーマ
集会のテーマは「Doubt: 『ダウト!!』あたりまえを問う』」です。信仰生活の中で「あたりまえ」だと思ってきたことを一度立ち止まって、自分でしっかり聖書から考えたい、そして神さまの恵みの奥深さを体験したい、そのような希望から出たテーマです。

準備会では、いつもテーマ決めに時間を費やします。青年委員たちは真剣に、自分たちや同世代の

持つ問題や課題に向き合い、主の導きと恵みを求めてテーマを決めています。その真摯な姿にはいつも心を打たれます。

◆講師も魅力的!
講師はK G K九州地区主事の松尾献先生です。インマヌエルの九州青年大会を始め、各地の大会で活躍をされています。6年間、東京都での教員経験を持ち、聖書を探究するとともに、それを現代の青年たちの言葉で鋭く伝える先生です。すでに先生からメッセージの要旨などいただいています。テーマに沿ったとても深い内容となっています。ご期待ください。

◆プログラムも充実
集会の時間はオンラインということも考慮し、2時間となっています。この短い時間をどのように生かして行くか、初めての経験でもあり、試行錯誤しています。

予定しているプログラムとしては讚美、アイスブレイク、ワークショップ、メッセージ、分かち合いなどです。今回はZoomアプリを使います。アプリではグループミーティングの機能等がありますので、それらを生かしつつ、アイスブレイクや分かち合いなどを行い、充実した時となるように青年委員が企画しています。

◆青年たちのためにお祈りを!
最後に、参加する青年たちが、聖書によって生かされ、新たな信仰の良いステップの機会となるように、また、残された準備のためにもお祈りください。

過ぐる年会で「組織改革検討チーム」の任命をさせていただきました。8名の先生方が快くお引き受けくださり感謝いたします。

前総会期からの引き継ぎ事項として、教団運営委員会のスリム化など、条例改正の課題がありました。総会に間に合わせるべく、昨年の春頃から準備を始めました。牧師数の推移予測などのデータとともにアンケートを実施しましたが、数としては多くはないのですが、かなり厳しい反対意見が返って来ました。教団運営委員会としてそれらと向き合いつつ、改革案をまとめるには、時間とエネルギーの不足を認めざるをえませんでしたので、教団運営委員が入らない第三者的な検討機関を設けて、約2年間をかける中立的な立場で改革案を練っていただくようお願いしました。検討チームの顔ぶれからご想像いただけると思いますが、以下のような期待を寄せています。

▼10年後を見据えて

女性のお二人を任命させていただきました。これでは少ないとお叱りを受けるかもしれませんが、従来の教団運営は男性中心であったと思いますので、女性の感性を十分に配慮した改革案となることを願っています。

▼2名の先生をアドバイザー的な立場として選びました。良いバランスが取れるよう願っています。検討チームには、総会で積み残した課題全般を扱っていただきます。具体的には、教団組織のスリム化、選挙制度の問題などです。皆さまのお祈りをお願いします。

教団運営委員会から……

事務年会を越えて

コロナ禍への対応

広報 大兼久芳規



7月6日に教団運営委員会がオンライン会議により行われました。初めに代表により「ペテロ四・7・8が開かれ「困難な時代であればあるほど、愛をもって処することの幸い」が示されました。

【代表報告】

6月にもたれた事務年会の内容と意義について語られ、このようなかでも年会が持つことが許され、各教区の代表の方々の意見交換の時間が許されたことの感謝を覚え、また組織改革検討チームが新設されました。教団の会議形態は、コロナ禍が続くことを考えると、それぞれの部局や教区でもこのようなオンライン会議が増加していくと思われま。会議のスキルアップも考えねばなりません。次期総会まであと7か月となり、その後の体制への道筋をも覚えながら、備える時期に来ています。

【総務】

本部は首都圏での感染拡大の渦中にありますが、火曜・木曜には

常駐の方が対応してくださり、業務が滞りなく継続されています。第75次年会の決算中間報告と、特別会計の補正予算が検討され、承認されました。

【国内教区局】

今年の夏の聖会の多くは中止となりましたが、北海道、東北では、Zoomによる聖会と、説教のCD配布により聖会が行われます。新型コロナウイルスによる各教会への影響・対応を宣教研究委員会とともに調査をする予定です。

秋の教区会や今後のことも考え、各教会のネット環境の整備も検討していきます。

【世界宣教局】

国内と同じようにコロナとの戦いは各宣教地でも起こっています。また現地地の政治情勢の影響、ビザの発給、アフリカのバッタ被害との戦いなどが報告されました。

【教育局】

生涯学習課のリモート会議、YS、とにキャンのオンラインでの開催が進められています。

【信徒局】

信徒局の新しいエリア制への対応と細則の検討がなされました。

【神学院理事会制度】

理事會制度への移行は基本的に承認されました。その目指す方向は「神学校の透明性・公平性のある神学院運営を実現する」ことです。そのためにも同窓会・後援会団体の意見や支援をいただきながら、健全な運営基盤の構築に向けて整えていきます。

信徒局からのお知らせ

エリア制がスタートします 将来の信徒参画のため 新しい御業を期待して

信徒局長 斎藤純雄

「見よ、私は新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。」

必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。」
(イザヤ四三・19)

第75次年会を終えて、なお「暫定」という形ではありますが、信徒局にエリア制が導入されました。現在、関係する条例や細則の改正手続きを進めております。

▼エリア制の目ざすところ

エリア制は、主に信徒局が進めようとしている「信徒フォーラム」の開催に当たって、各エリアにおける集まりやすさなどを考慮して設けられました。

▼エリア制の特徴は

「信徒局エリア制」の特徴は、教団の現状と今後の在り方を見据えて、これまでであった壮年部・女性部の枠が取り払われ、壮年部・女性部が一つの組織にまとめられたことでもあります。

若手牧師研修会報告……

リモートミーティングで

牧師のセルフケアを学ぶ

教育局長 小川宣嗣

年會時に予定されコロナのため中止となった若手牧師研修会を補うために、Zoomを用いてのリモート研修の時を持ちました。

7月7日(火)午前10時~12時の2時間という限られた時間ではありましたが、小礼拝(小川)、オリエンテーション(田辺寿雄師)、発題「コロナ禍での牧師のセルフケア」(古川恵子師)、4グループに分かれてのディスカッションタイム、締めくくりの全体分かち合い(野田容子師)、という内容で、11名の参加者&4名のスタッフで、大変幸いなプログラム&交わりの機会となりました。

講師の古川師は、ご自身がコロナ禍の中でどんな疲れやストレスを覚えたか、それに対処する幾つかのコピーング(対処法)、特に牧師としての霊的なコピーングについてとても具体的に語ってください、良い刺激をいただきました。盛り上がりました。

参加者の感想も良好で、この秋にも第2回目を計画する検討に入りました。背後のお祈りに心から感謝しつつ、ご報告と致します。

国内教会局から

教会建設の務めに
インターネット礼拝考

この度の新型コロナウイルス感染症拡大の対策として、多くの教会でインターネットを利用しての礼拝メッセージ配信が用いられています。会堂を開けることが許されない中で、なお礼拝の営みを続ける術が与えら



れている恵みを感じておられます。実際に配信をさせて頂きながら思い巡らしていることを数点。
①改めて礼拝式について考察を深める機会となりました。これまで繰り返してきましたプログラム一つひとつについてその意義を会衆の皆さんと考えています。
②集まる尊さを味わっています。御霊の一致、キリス

トのからだとしての姿、兄弟方の聖徒の交わり、配信中に最も苦慮する部分です。
③配信する側に立ち、突然「世界が我が教区」となった気分になりました。確かにだれでも視聴することができます。しかし捧げる礼拝はあくまで仕えている地域教会の営みであることを弁えながら取り組んでおります。(葛田崇志)

■世界遺産アヤソフィアの行方
トルコの裁判所は7月2日、キリスト教会とモスク(イスラム礼拝所)の特徴を併せ持つイスタンブールの世界遺産アヤソフィアの「博物館」としての地位の是非をめぐり審理を行い、「今後15日以内に判断を下す」と決定したとイスタンブール発時事通信。
エルドアン大統領は判断を踏まえて「モスク化」を進める方針。アヤソフィアは六世紀にビザンツ帝国がギリシャ正教の総本山として建立。十五世紀、オスマン帝国の支配下でモスクに改装された。1935年には政教分離を進めたトルコ初代大統領ケマル・アタチュルクの下で無宗教の博物館となり、「異文化共存の象徴」と見なされるようになった。しかし、トルコのイスラム主義者は最近、博物館になった際の手続きに不備があったとして提訴。国内のイスラム勢力を支持基盤とするエルドアン氏も、アヤソフィアをモスク

に戻して「礼拝の場」とすることに意欲的だ。こうした動きに対し、隣国ギリシャなどは強く反発。マイク・ポンペオ米国務長官は1日の声明で、アヤソフィアを博物館として維持するよう促した。
■「教会の彫像も見直す」とカンタベリー大主教
英国国教会(聖公会)の霊的最近指導者カンタベリー大主教のジャスティン・ウェルビー氏が6月26日、BBCラジオの番組で主



海外トピックス

要教会などに置かれている彫像について「現状が適切であるか慎重に検討する必要がある」と語った。アフリカ系アメリカ人ジョージ・フロイド氏が、警官に拘束され死亡したことを契機に「ブラック・ライブズ・マター」(黒人生存問題)運動が英国でも広がり、過去の帝国主義と奴隷貿易に関連した様々な記念物の撤去を求める声があがっている。最近、米国で新大陸の探検家であるコロンブス像がデモ隊によって毀損されるなど、関連記念物が攻撃を受けている。
社会が赦しよりも悔い改めに重きを置いているのでは、との質問に、大主教は、「悔い改めと正義は並行してなされなければならぬ。この数か月、新型コロナウイルスだけでなく黒人生存問題や経済不況といった危機にも直面している。こういった大きな不義から私たちが逃れるには悔い改めが必要だが、同時に赦すことを学ぶ必要もある」と述べた。(平瀬聡樹)

選挙管理委員会からのお知らせ

第22次総会に向けて
代議員選挙が始まります



選挙管理委員会 宮崎聖輝

- 去る6月の事務年會にて第22次教団總會の日程と總會代議員定数が決まりました。
- 【日程】
2021年2月11～12日
*開催形態は情勢を見て判断
- 【代議員定数】
職責上の代議員 14名
現教団運営委員 (教職12名、信徒2名)
▼選出される教職代議員 24名
- 【内訳】
全国区から12名
地方区から12名
北日本(北海道含む) 2名
関東南 3名
中部 2名
西日本 2名
南日本(沖縄含む) 2名
宣教地 1名
▼選出される信徒代議員 24名
- 【内訳】
東関東・東京・近畿教区 各3名
神奈川・静岡・北九州教区各2名

その他の教区・地区 各1名
これらの決定を受け、選挙管理委員会は選挙実務を進めます。
●信徒代議員の選出
受洗後10年以上の信仰生活を経た第一種会員で、2021年4月1日時点で満72歳以下の方が有資格者です。教区及び地区ごとに選出し、選挙管理委員会宛(familymiyazaki@gmail.com)まで直接ご送信ください。期限は9月15日です。
●教職代議員の選出
選挙は、在職2年以上の教団全牧師(ただし引退、休職、休養、教団外派遣の者を除く)によって行われます。候補者は、2021年4月1日の時点で満70歳以下の全教職となります。8月半ばに候補者名簿と投票用紙を送付いたします。ご記入後、ご返信ください。期限は9月15日です。
●教団代表の選出
まず予備選挙を行います。年齢・再選制限対象者を除いた教職代議員の中から上位3名を代表候補者として選びます。選挙権は教職代議員選挙に準じます。10月下旬に候補者名簿と投票用紙を送付いたします。期限は11月16日です。選ばれた代表候補者3名は教報紙上にて公表・紹介いたします。
次に本選挙を總會時に行います。總會代議員による投票によって、過半数を獲得した者が次期教団代表として選出されます。

新型コロナウイルスと教会

この事態から何を学ぶか 2
聖餐式のあり方を考える
聖餐を共にするには

高津教会 藤本 満

私の牧する教会では、オンラインで聖餐にあずかっています。コロナ禍以前に、これまでも各自聖餐を準備し、共にあずかるように推奨してきました。
神学的にどのように考えるべきなのでしょう？ 以下、私見を記します。教団として、各教会が共に考えることをお勧めします。
宗教改革でプロテスタント教会が誕生したとき、大きく2つの問題が論争となりました。

1 物素とキリストの関係

これは、パンとぶどう酒（物素）とキリストの実体との関係です。カトリック教会では、実体変化説を掲げ、司祭が祈るとき、パンとぶどう酒がキリストの実体に変化するという理解に立っていました。

このとき、大切なのは司祭の聖別の祈りです。司祭はパンを高く持ち上げ、杯に手を置いて、物素のために祈ります。このとき、パンとぶどう酒がキリストの肉と血（御聖体）に変化します。

ルターもカルヴァンも英国国教会も（プロテスタント教会全体）、物素に手を置くことを拒絶しました。物を変化させるのではない。信仰をもってあずかるときに、キリストの臨在がパンとぶどう酒にどのような伴ったとしても（臨在方式についてプロテスタントは見解が分かれましたが）、大切なのは信仰をもってあずかる私たちです。ですから、プロテスタント教会の式文はとも気をつけているはず。牧師の所作において、パンを裂くなど象徴的要素はあってもいいのです。しかし、それ以外の余計な所作は禁じられました。

そうしますと、聖餐式の祈りはインターネットを通して、物素をきよめているのではなく、それにあずかる私たちの信仰を整え、信仰を引き上げると考えるべきで、この点において、オンラインの聖餐には問題はないはず。2 物素と司祭・牧師との関係

二番目は、司祭・牧師から聖餐が直接に手渡されるかどうか、です。カトリックと聖公会では一列にならなると、直接に前に出て聖餐にあずかります。配餐はしません。そこには神から直接に受けるという意味があります。

日本基督教団の旧メソジスト教会は、今でも前に出てあずかる形式を守っています。あるいは配餐したとしても、配餐者が前に来て牧師と共に先にあずかります。それから配餐することは、神からの直接性を表しています。

この考え方を嫌ったのが再洗礼派（バプテスマ）でした。宗教改革の当時から、パンと杯を互いに回すことを実践していました。一番上におられるのは神であって、その下にいる牧師も信徒も同列にあつて、共にあずかります。プロテスタント教会では、これは決め事として「秩序」をもつてなされることです。そこには教派のこだわりはあるでしょう。しかし、それは実質的なものではないと考えるべきです。

3 一つのところに集まる？
コロナ禍で教会は、もう一つの問題に初めて直面しました。それは、主イエスの時代から聖餐は、信仰者が一つの場所に集まり、共にあずかることを実践してきました。ところが感染症の危険のために、それができないのです。したがって、各家庭でおのの聖餐にあずかることは、教会の伝統にふさわしくないと考える人もいます。

しかし、そのような論はオンライン礼拝を正しく理解していません。牧師は、オンラインで「共に礼拝する」ことを呼びかけます。皆さんも共に賛美し、祈り、みことばに聞き入っているはず。そのような意識に皆が立っているのなら、聖餐も「共に」あずかっているはず。インターネットは空間を超えて、私たちを一つにする方法を提供しています。その意識を大切することがオンライン礼拝の肝心な点です。

コロナ後を考えながら

深川教会での取り組み
霊的な備えも大切に



深川教会 川嶋直行

「用意ができていた娘たちは彼と一緒に婚礼の祝宴に入り、戸が閉じられた。」（マタイ二五・10）
「十人の娘」のたとえは、「用意の大切さ」を教えています。リスク管理の基本は、最悪を想定して備えることだと言われます。私達は、新型コロナウイルス感染症の「第二波」が来ないよう願いますが、一方で用意しておく必要があると思います。過去のスペイン風邪の大流行の時は、夏季に感染が衰え、9月と10月に激しく勢いを取り戻し、結果的に「第一波」の時より多くの犠牲者が出ました。

深川教会の新型コロナウイルス感染症対策の取り組みを書くようにということですので、何らかの参考になればと祈りつつ紹介させて頂きます。7月5日現在、礼拝は会堂に集まる人数を制限（通常の20、40%）し、Zoomと並行して礼拝を行っています。会堂は、エアコンを付けながら窓を開け、講壇の前にはHEPAフィルター空気清浄機2台稼働しています。マスク着用、手のアルコール消毒、土曜日には、有志の方による拭き清掃が行われています。インターネット会議システム活用のメリットは、双方向コミュニケーションが取れる点でしょう。自由参加ですが、礼拝後Zoomのブレイクアウト機能を使ってグループに分かれ、近況報告と祈りの時を持っています。教会学校、お祈り会、聖書の学び、運営委員会、ファンファンイングリッシュ等もZoomを活用しています。たとえ、スマホやモニター越しであっても、顔を見、声を聴いてコミュニケーションが取れるのは大きな恩恵です。普段、参加できない方が参加できるメリットもあります。墓前記念会もオンラインで中継しました。小雨の降る中でしたが、高齢の方は長時間の移動が大変ですのでZoomでも参加できたのは良かったと思います。

教会は、「集まる」ことが基本ですが、感染症流行時等においては、集まること自体が難しくなります。伝道活動も制限されます。インターネットは、その欠けをある程度補うことができます。この際にネット環境強化をお願いしているところ。しかし、「用意」の本丸はそこではありません。「十人の娘」の譬えは、最後は神とのパーソナルな関係が鍵だと教えています。そこは本人以外立ち入れない領域です。テクニカルな備え以上に、神様との関係強化という「霊的留意」が大事だと思います。

巻頭言

あらゆる境遇に対処する秘訣



世界宣教局長
梅田 登志枝

「私は、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私を強くしてくださる方によって……。」(ピリピ四・12、13)
新型コロナウイルスの影響を大



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

大きく受けた年も、すでに夏を迎えました。教団も教会も、計画中止や変更を強いられる状況が続いています。世界宣教も例外ではありません。宣教地によっては都市封鎖や集会の禁止などが継続しています。また国際航空便の運休は宣教師たちの出入りに影響をもたせています。世界宣教の大切な担い手である国内教会の集会自粛は宣教献金減少の不安へとつながります。それはまるで世界宣教の働きの停滞、後退を呈しているようにも見えます。しかし宣教の主は厳しい現状の中にも変わることなく働き続けておられることを忘れてはなりません。

◆宣教における困難
エルサレムから始まった宣教の働きは、様々な課題を乗り越えな

ければなりませんでした。伝統的なユダヤ人たちや宗教当局からの迫害を受けました。使徒の働き六章を見ると、配給のことで教会の内部にも問題が起こりました。一五章では「異邦人の割礼」のことで激しい論争が起こったのです。ヤコブは殺害され、ペテロは投獄されました。パウロが福音のまったく伝えられていない町や村を訪れても、良い結果はなかなか得られず、むしろ激しい迫害に直面しました。そのためパウロは、ピリピ教会の支援が必要なほど経済的に困窮しました。

◆困難な中に働く主の恵み
ピリピ人への手紙は、ローマの獄中から書かれたと言われています。パウロはその厳しい環境にありながら、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得たと告白しています。貧しさにも豊かさにも対処する恵みを主から与えられていたのです。新型コロナウイルスの感染拡大のために緊急帰国した宣教師があり、宣教地に留まり続けている宣教師もあります。けれども派遣された主は、今置かれているその場所であらゆる境遇に対処する秘訣を与え、力を与えてくださるお方です。信仰者も牧師も宣教師も、厳しい現状であっても、主権者である神主に繋がっていたいものです。影響は受けたとしても、支配される必要はありません。なぜなら、宣教の主は私たちにその中で「あらゆる境遇に対処する恵み」を得させてくださるお方なのですから。

海外で宣教師として働きに従事する場合、その国の居留ビザ・宗教ビザが必須となります。台湾では、有効期限が1年で、1年毎に期限前に必要な書類を揃えて、所定の機関で延長の手続きをします。これまで20数回、一度も支障なく受理されてきましたが、今回は、事情が違いました。これまで長きに渡り働きの支援をしてくださった宣教師団体の本国の方針変更、働きの縮小に伴う措置で、アンブレラの宣教師にはビザ発給ができないうことになったのです。

昨年更新以降、いろいろな情報入手確認し、祈り、今後の台湾の働きを展望しつつ、現在、毎月奉仕に行っている台南聖教會に相談、支援要請をしました。その結果、私共の状況を知り、招聘先として快諾してくださり、今後は台南聖教會の書類で、すべての手続きを進めることになりました。当初の見込みでは、教会名の変更だけで問題なしということで、手



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2020年7月7日

続き当日には、台南より担当の先生も台中に来てくださり、延長申請に立ち会い、すべての書類の確認がなされ、手続きが無事に受理されました。

しかし週明けに、移民局より電話連絡が入り、今回の更新延長が差し戻されたとの通知を受けました。事情説明を受け、宗教ビザには、通常の勤労ビザとは違う細かい制約があることを知らされ、これまでの宣教師団体のものではなく、延長申請が受理されないとの説明を受けました。このままでは、期限の7月10日までしか台湾に留まることができず、コロナの特例事項を考慮しても、1か月延期猶予の後、8月10日出国となるということでした。あまりにも急なことであり、突然の予期せぬハプニングに見舞われましたが、係官の丁寧な説明を受け、(後にクリスチャンであることが判明)、これまでの宣教師団体に今回の特殊事情を説明し、必要書類の発行をお願いすることにになりました。すでに決議されていることを変更するのは、簡単なことではないとのことでしたが、私共の窮状を考慮し、今回は特別措置として、必要書類の発行をして下さいました。その書類を受け取り、改めて延長申請をし、7月3日に無事に新しい居留証が交付されました。この間、台中教会、台南聖教會、台南日本語礼拝のスタッフ、全国教会の先生方、愛兄弟の祈りを頂きましたことを心より御礼申し上げます。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2020年7月5日

お祈りを感謝致します。六月は、世界宣教局の局員会議から開始しました。回線が一度切れましたが戻る事ができ、感謝でした。

副主任が、「いつも送っていただいているタオルと石鹸に感謝しています、と伝えてね。」と言付けてきました。手術室内回復室に数日滞在される心臓外科手術後の患者さんに石鹸とともに使っています。心臓外科用集中治療室代わりの回復室から準集中治療室に異動の時、迎えに来た看護師さんに「この患者さん、体拭き用のタオルを持つてるの？」と驚かれ、感謝されるので「そうよ、アンナの所からの献品なの」と答えているそうです。アンナ（私）は右から左に渡しているだけなので「アンナのところ」というのはちょっとと答えましたが、背後の尊いお祈りと御愛に心より感謝申し上げます。

先日夜中近く、病院そばの私有地で火事がありました。前回の病

院の火事のと、色々整えられたので、守衛さんや営繕等の病院スタッフで構成されたチームがすぐ出勤、病院の消火用ホースを次々とつなげて放水し、短い時間で鎮火したそうです。人的被害は無く感謝でしたが、14世帯が焼け出されました。ご近所の一大事ということで、病院の公衆衛生部やチャレン等が中心となり、公私の援助やカウンセリングを取りまとめました。ワッツアップという、ラインのような携帯電話のグループ連絡網が、義援金や必要な物の名前と数の調整に役立ちました。公衆衛生部からの依頼で日本からのタオル40枚を提供しました。病院への献品が病院や教会以外の私用に使われないよう常に気を付けていますが、今回は病院からの公的支援の一環であり、手術室主任と相談しての例外的な措置でした。公衆衛生部の看護師E姉妹から感謝の携帯メールをいただいております。後日、病院のキッチンにも10枚を供出しても感謝されました。本当にありがとうございます。

新型ウイルス感染者合計5千人以上、1日の新しい感染者数が百から2百名とのこと。数か月前に総感染者数が20名に届くかどうかだったのを考えるとだいぶ増えています。

上半期最後の月、医療品会社から納品された物品の書類の完結作業などで追い込まれたりもしますが、締めくくりを迎えられ感謝です。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2020年7月7日

フィリピンでは日毎の感染者数が増加しており、一日に千人を超えることもあります。回復者数は3万6千人を超えました。私たちが滞在するパンガシナン州では、それほどの感染者数増加は見られませんが、ロックダウンのレベルが引き下げられたとはいえ、樂觀視せず自粛生活を営んでいるように見えます。

6月下旬、2度の不承認後、3度目の正直でグーグルより教育機関向けサービスを提供して頂くこととなりました。さらには、マイクソフトにも申請し、同等のサービスを受けられることとなりました。常喜は学校がサービスを有効活用できるように設定したりガイドラインの作成、教師向けのワークブックを準備するなどの準備に追われています。また、姉妹校（カバカン、コーディレラ、パラワン、ピサヤン）にもシステムの利用を呼びかける予定です。8月に始まる新学期開始に間に合う

ように、引き続きお祈りください。恭子が2人の女性を連れて宣教車で買い物に出かけ、帰りに公道を走行中、後部座席右側の窓に石が当たり、窓ガラスが破損しました。幸い、ガラスはヒビが入っただけでしたので、窓越しの座席にいた先生に怪我はありませんでした。どうして石が飛んできたのかは分かりませんが、通りかかった警察によると、おそらく、オートバイに踏まれた石（飛び石）とのことでした。警察は、保険に必要ない証明書を作成するために、警察までパトカーで誘導してくれました。証明書は無事に発行され、受け取る事ができました。帰宅途中、大きな振動を与えると細かなヒビの入ったガラスがポロポロとこぼれ落ちてくるので、スピードを緩めて走行し、無事に帰宅する事ができました。翌日には、保険代理店と連絡が取れ、保険で保障されることとなりました。主のみ守りを感謝しました。

帰省できず校内に留まっている学生たちが、職員の子どもたちのために夏休み聖書学校を6日間、毎日午前中開いてくれて、私たちが子どもたちも参加することができました。普段、長時間交流できなかった仲間たちと過ごす時間は貴重で、楽しかったようです。長男は言葉が分からなくても、積極的に参加し「楽しかった」といって毎日帰って来ました。聖書のみことばに友だちと触れられる感謝なひとときとなりました。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2020年7月4日

「主よ、あなたのみわざはなんと多い事でしょう。主の栄光がとこしえにありますように。主がそのみわざを喜ばれますように。」詩篇一〇四篇にアーメンと和しながら、6、7月のカンボジアに於ける生ける主の不変の御業を幾つか御報告して御名を讃美すると共に尚、御業の進展の為の祈りを願います。

その1、ヴァンディ先生へ奇跡的見守り。7月4日、小さな島に開拓中の教会を訪問した土曜日のこと、久しぶりの訪問に喜ぶ現地の方々が中々帰らせてくださらず、帰路についていた時は既に夕闇の迫る頃。緩やかな登り坂の橋を走行中、前を走る2人乗りのバイクとV師の後ろから追い越してきた1人乗りのバイクが目の前で衝突事故！あわや惨事となるどころ、巻き込まれずに済みました。もしこの時間（日本の夜11時頃）お祈り下さっていた方があったら心からの感謝を申し上げます。

その2、暫く連絡が途絶えていたグレッグ先生、お祈りしておりましたところ、ステイホーム中に全家族が風邪で床についておられたとのこと、加えて2週間余り、車の免許更新と取り組む日々でした。厳しいテストで満点でしかパスしないため、ほとんどの人は自動車学校に3百ドルを払ってパスする道を選ぶようですが、彼はその費用も出さずに(出せずに!)最初のテストは全外国人と共に落ちました。2回目のテストを受けるにも費用がかかるのですが今度こそと祈りつつ臨みました。その日は私も1日中聖霊が思い起させて下さる毎に祈りつつ過ごしましたが、主の御業の故、合格!との報告に心から御名を崇め、予定通り巡回も再開可能となりました。

その3、最後に以前お祈りをお願いした無実の罪で投獄中の比国人、グレッグ師の牧会する教会メンバーで小学校の先生、パウロ兄の件が漸く1年の投獄の後、裁判開始。弁護士により裁判官が告訴者と検察の陰謀である事を裁判官が知るために再調査を要求して受け入れられ、裁判が延長されました。主がこの国の為政者たちの心を動かして正義が勝利するようにお祈りを引き続きお願いします。

コロナウイルス感染症のため、年末まで入出国困難のカンボジア、待機期間が私の狭窄症の治療の時に与えられたの御ご配剤に感謝し、委ねて治療に当たって参ります。門が開かれる迄、尚乞統禱。■



上半期が過ぎここまで守られていることに心より感謝します。6月最後の聖日に出席させていただいた時「上半期最後の聖日」と言う言葉で、2020年がもう半年過ぎたんだと気付かされました。この半年を振り返ると、帰国当初は考えてもいなかった様々な出来事がありました。3月に婚約式、4月には予定していた再赴任が延期、5月には契約期間延長してパートとして働いていた病院を辞め、6月は今後の見通しを立て直しております。

現在、ザンビアへの再赴任の見通しは立てられておりません。この現状を受け入れるには時間がかかりました。計画していたことが閉ざされ、先伸ばしにされていく中、ネガティブな見方から抜け出すことは容易ではありません。ある時、先ばかりを見ようと「見えない行き先」に不安になっていたことに気付かされました。そのような時、心を静め、地に足を

けて今を見つめ、受け入れることが必要であることを教えられました。そこで語られたのは主の道、主の計画に心を向けること、今まで、主ご自身が見えていなかったことに気付かされました(詩篇一六篇)。そこから見えてきたのは、自分を中心にしたものの捉え方をしている姿でした。計画が留められたことのショックから抜け出せず、望みを抱くことを恐れていた自分。そして神様に心を向けた時、ヨハネの福音書二一章15、19節から「私を愛しますか?」と言う声が心に響いてきて、献身の思いを新たにいたしました。全知全能の主に望みをおきつつ、そのときを待ち続けたいと思います。

6月2日に世界宣教局員会がオンラインで開かれました。画面越しではありましたが、愛する局員、宣教師の皆様と再会が許され、幸いな恵みのひとときでした。

6月下旬には局長とズーム会議の機会がもたれ、フライトが再開され次第、その時点で再赴任という方向性でいくことを確認いたしました。

ザンビアは冬(関東地方の秋から冬のような寒さ)に入っています。朝晩はかなり冷え込みます。ジェンボクリニックはデジタル化したシステム導入でスタッフは大変なようですが、変わりなく守られているようです。宣教師が不在の中にあっても宣教師館を管理してくださっている方々がおられ、守られていることに感謝します。

■会計報告6月分
宣教献金 二、一〇八、二〇二円
月平均 一、七九七、九七五円

お祈りの課題

ザンビア (富澤)

- ◆日本で災害に遭われた地域と人々の一日も早い回復を
- ◆ザンビアのコロナ禍の収束と国が守られますように
- ◆体力の回復と帰国準備のため
- ◆ザンビア (根廻)
- ◆見通しが立てられたことの感謝
- ◆ジェンボクリニック守られていることの感謝
- ◆神様の時を忍耐持つて待ち続けることができますように
- ◆ケニア (鳥田就子)
- ◆現在もウイルス等から守られていることの感謝
- ◆マリリア、新型コロナウイルス、イナゴ、テロ等から守られ、また対処できるように
- ◆麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカ一〇章2節)が起されるように
- ◆教会の12年目の歩み、教会員の成長と救霊の働きのため
- ◆牧師たちの大陸への出入りがまだできません。健康が支えられ、以前の働きが続けられるように
- ◆コロナ以後の香港の経済回復と香港国家安全法の執行後の政治的な課題のため
- ◆カンボジア (鳥田緑乃)
- ◆コロナ以降の伝道態勢に聖霊の知恵が与えられ、教会の成長に繋

がる働きへの導きを

- ◆集会禁止令によりグレッグ牧師の教会の礼拝場として借りていた部屋を一端断りましたが、その後のために。また先述のパウロ兄の裁判に主のご介入と勝利をお祈りください
- ◆鳥田の治療の効果が見られて、痺れからの開放が見られるようにお祈りください
- ◆台湾 (平瀬)
- ◆私共の居留証が更新されました。お祈りを心より感謝します
- ◆7月に入って記録にない猛暑です。健康が支えられ、奉仕が継続できますように
- ◆台中教会、台南日本語礼拝に戻りつつある方々、戻っておられない方々のため
- ◆救われる方が起されますように。受験、就職など人生の岐路にある方々に主の導きがありますように
- ◆台湾の政治、治安の安定のため。第二波を警戒しつつの国政です
- ◆日本にいる子どもたちの学校生活が祝され、守られますように。オンライン授業、登校のみ守りのため
- ◆フィリピン (豊田)
- ◆学生たちの健康と霊性のために、オンライン学習に一日も早く慣れるように。学生たちと職員たちのコミュニケーションがオンライン学習を通して、うまく取れるように
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害疫病から家族が守られますように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

主に遣わされて

院長 ● 林 正弘

「わたしは狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。」 (マタイ一〇・16)

*

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、神学院の前期の学びは特別な形で進められてきました。夏期実習も当初の予定よりも少し遅れて始まります。その夏期実習の任命発表も、皆で集まって行うことができず、オンラインで行われました。しかし、オンラインであったため、普通ならばお迎えできない方々の「列席」をいただくことができました。お迎えした神学院運営委員ら来賓か

ら、一言ずつ励ましの言葉が語られ、感謝でした。その中に、マタイ一〇章に記されている十二弟子を派遣されたときの主イエスの言葉の引用がありました。派遣の祈りでも引用しましたが、主の語りかけは具体的であり、また示唆に富んでいます。主は、行つてはならないところと行くべきところを示しておられます。宣べ伝えるべきメッセージとなすべき務めを与えられます。それを果たすための権威も授けられました。しかし、遣わされた者たちは平坦な道のみを行くのではなく、狼の中に羊を送り出



神学院キャンパス あじさいの季節が終わろうとしています

すようだと主は語られました。蛇のように賢く、鳩のように素直でなければなりません。これらのことを心に留めながら、実習にあたる神学生方のために祈りたいと思います。主に遣わされて出て行くのは、神学生や働き人だけではありません。主の弟子とされた信仰者すべてが主に遣わされていきます。ともに礼拝を守り、祝福を受けて教会から出て行くとき、私たちはこの世に遣わされます。ある意味で、教会に遣わされる神学生よりもずっと危険なところへ私たちは行かねばなりません。しかし、主がともにおられ、必要を満たしてくださるので、平安をもって出て行き、また帰ってくるのです。主に遣わされることを特に意識するこの夏でありますように。

今、兼牧を余儀なくされる牧師が増えつつあり、私もその一人だが、常駐する牧師のいない会堂管理は大きな課題の一つである。建物の管理のみならず、郵便物の管理、会堂の清掃、換気、集会準備、ホームページの更新や会計など信徒方に分担していただいている。短期間ならまだしも、これが数年以上続くとすると心配である。また閉鎖された教会の会堂管理も、誰かが担わなければならない。長い歴史を有する教会が、過疎化と

神学エッセー

教会施設の管理 1 会堂をどう維持していくか



田中 進

信徒の高齢化により、教会堂の維持管理ができなくなり、廃墟のようになってしまった実例もある。最近思うことがある。教団は信徒伝道者、特に「説教」の御用ができる信徒の養成を目ざして来たが、今必要とされているのは、教会管理者である。常駐牧師が不在の教会や説教は担当できるがそれ以外の奉仕に限界を感じている高齢牧師の教会を支える専任(有給)の事務主事(事務を中心的に扱う人)や管理主事と呼んでも良い(会堂管理の部門を担う人)である。その人たちに求められるのは何だろう。

- ▼献身(主と教会への献身的姿勢なくしては務まらない)
- ▼健康(霊肉において重要である)
- ▼牧会的感覚(教会を尋ねてくる人、電話をかけてくる人への適切な対応や対外的な窓口)
- ▼事務処理および管理(教会会計・役員との連携。地域社会との関わり、毎週の清掃やゴミ捨てなども含む。毎月の管理費の支払い、建物の維持管理などなど、派遣された教会の実情の沿って臨機応変に対応する)。こう並べて行くと、「説教」以外で牧師が担当している全般の働き、を挙げている。

教会の働き(宣教と教会)は、牧師と信徒との協調体制が必要である。信徒局が誕生して3年、信徒の交わりネットワークの構築が進められ、教団の奉仕のみならず、各地域の教会の支援にも力を発揮していただきたいものである。

◆前期の学びの中で

友と呼ぶ

正規コース 石川 順

「わたしはあなたがたを友と呼びました。」(ヨハネ一五・15)

ある日の夕方、空がオレンジ色に染まり、所々に灰色とオレンジ色が混じった雲が見えていました。私は娘と一緒に空を見上げていました。神様が造られた自然は私の心を癒してくれます。その時、夕空に何かが飛んでいました。よく見るとそれは「コウモリ」でした。最初コウモリを見た娘は怖いと言っていました、しばらくすると「友達になりたいな」と言いました。私はコウモリと友達になりたいと思ったことはありませんでしたが、娘はコウモリと一緒に空を飛んでみたいという思いがあったようでした。

イエス様は弟子たちに「あなたがたを友と呼びました」と言われました。主人としもべという関係ではなく、何でも語り合える友達と言われました。今を生きる私たちにも同じメッセージが語られているのではないかなと思います。イエス様は、私たち人間の友となるためにこの地上に来てくださいました。人間の側から友と呼んで

くださいとお願いしたのではなく、神様の側から友と呼ぶと言ってくださいます。人間同士では、相手のステータスなどを見て友達になつたり、裏切つたりすることがあります。しかし、イエス様は私たちのステータスなどには関心がなく、私たちの心をご覧になるお方だと思えます。人間が裏切つたとしてもイエス様は変わりなく、人間を愛してください、いつでも友となるという約束をしてくださることを信じています。

夕空に飛んでいたコウモリは果たして娘と友達になつてくれたか：連日、飛んでいる姿を見せてくれたので友達になつてくれたのかなと思えます。

いつも私たち神学生のために祈りと尊いサポートを心から感謝します。

◆前期の学びの中で

コロナ、それにもかかわらず感謝と期待

聴講生 金承柱

「しかし、私は主にあって喜び踊り、わが救いの神にあって楽しむ。」(ハバクク三・18)

コロナウイルスにより多くの人の日常に変化が生じています。しかし、危機は、機会であるとも言



男子寮の玄関前には、小さな畑があります



神学院の図書館／食堂棟の厨房がリフォームされました。この春に神学院で開催予定だった年会のために整備しました。新しい設備が次の出番を待っています。

われます。コロナウイルスによる様々な被害は、間違いなく危険な要素ではありますが、それにもかかわらず以前は考えもしなかったような方法が試みられ、新しい可能性の発見が多々あります。Zoomを活用した神学院のオンライン授業もそのような新しい機会であったと思えます。

個人的には、神学院の授業がZoomを活用したオンライン授業になったことで、教会のオンライン礼拝の改善のために新しいアイデアが浮かびました。そのアイデアは、母教会である東京フリーメソジストみずほ台キリスト教会で適用しています。まず、Zoomで礼拝に参加している方々のために、映像とオーディオを更に改善しました。また、会堂にスクリーンを設置し、Zoomを利用して



賛美と御言葉を投影するという小さな変化をもたらしました。このような試みにより、会堂で礼拝を捧げる方々同様、Zoom礼拝を捧げる方々の集中度も高まること期待されます。何よりも、離れた場所でも礼拝を捧げても、お互いに一体感を持てる点が良かったと思えます。

会堂で礼拝を捧げ、礼拝後にも親密なお交わりができることが、どれほど大きな喜びになるのか、コロナウイルスの事態を通して悟りました。人生と信仰の先輩である信徒の方々が、コロナウイルスから守られて安全に過ごされまうように。オンライン礼拝の扉が開かれたことにより、教会の器が更に広げられますように、主の御名を通して祈りいたします。

私の神学生時代
宝の靈的体験
27期生 ● 水田眞佐子



「イエスは彼らに言われた。『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。』」

主イエス様の召命のみことばにお従いして学びと御訓練のために当神学院に導かれましたことを、心から感謝致しております。

入学入寮初日から、素晴らしく教えられ驚くことの連続でした。

先ず神学院の先生方、神学生の姉妹方の謙虚で、キリストの御愛がにじみ出ている姿に、至らなき実質のなさに恥じ入る自らでした。

当時、私は、父から勤当の言葉を受け、銀行を退職して、5年間の結婚資金用の貯蓄も主に捧げて、元には戻れない状態でした。またアレルギーの薬を服用しておりま

したが、主のお癒しの信仰に確信のないまま焼却炉に捨ててしまい健康的な闘い、当時は厳しく思われた寮生活、更に、肝心な学びとご訓練についていけない私でした。

10時の消灯の後、8畳の和室に、両側の先輩に守られるように敷かれた布団に正座をして、いつものように無声でお祈りをしておりま

したが、この夜は、深刻な現状を心を注ぎ出して、主に申し上げたのでした。切に切に祈るうちに、体の感覚がなくなり自由な状態で、まぶしくはないのですが、どこまでも光輝く所におりました。

「主イエス様、ここは時間の無いところなのでね。ここにずっと居たいです」と申し上げた時に、未だ救われていない家族の姿が見えませんでした。「救われていない家族を導かなければなりません。元に戻して下さい」とお願いしましたら、正座をして祈っている体に戻っていました。永遠とは時間の無い世界と知りました。この不思議な体験は、今に至るまで私の宝とな

っています。結果はともあれ、十分に福音をお伝えできましたら後のことは主にお委ねして行かせて頂ければ幸いです。

神学院で教えられた主のご臨在とご同行。恐ろしい罪を赦され、聖めて頂き、主イエス様と共に歩む生活の素晴らしさ心の底から泉のように湧き出するいのちの水、喜び感謝に心満たされ、祈りとみことばの奉仕に専念する日々と福音をお伝えお証しする恵みの日々、尊い使命を与えて下さった主イエス様に心から感謝致しております。

ご指導くださった先生方、先輩方とお一人一人に感謝致します。「主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々にお力を現わしてくださるのです。」

(Ⅱ歴代誌一六・9)

同窓生の近況

54期生

東京FMみずほ台教会 ● 野尻道人



神学生時代で最も心に残っているのは、月曜夜の合同祈禱会です。この時の深遠な祈りの世界を今も継続して学んでいます。卒業後、小金井教会でユースパスターとして7年間奉仕しました。若者を育てる！と息巻いていましたが、

実は多くの方に育てて頂きました。鶴瀬教会は教会ごと東京FM教団に移転となり、すぐに新会堂建設が始まりました。「天の神ご自身が成功させて下さる」(ネヘミヤ二・20)を頼りに、皆で心を合わせた結果、良き地が与えられ、み

ずほ台教会として再スタート。既に5年が経過しました。昨年、父を天に送りました。反発という言葉では言い表せない複雑な思いを持っていましたが、実は伝道者としてのその背中を追いかけていました。もっと素直になっていけばという思いも……。コロナ禍を通して教会、牧会、礼拝等を学び直し中です。このような中でも、最も頼れる同労者で、最も仲の良い友人で、愛する妻である香織と共に牧会を続けられていることが感謝です。マルコ二・30〜31。

神学院スタッフ…恵みの想起

イエスさまの足もとで

ベテルハウス管理 赤石桂子

「敵であつた私たちが、御子の死によって神と和解させていたのだのならば……」ローマ五・10

新型コロナウイルスによってベテルハウスも閉鎖されたこの期間、改めて主の憐れみにのみ、献身があり得ることを感謝しております。

イエス様のみ足に香油をぬり続けるということは？今現在事態の香油は何処へ注がせていただく？本当にイエス様が注いでと願っているところは？イエス様の御衣の汚れを拝見し、そのご苦勞は？今のイエス様のお祈りは？香油の壺を抱えた私を、イエス様の足元に佇ませてくだささいと願いながら、

学院において年会が実行されるその時は、ナルドの壺を満たして先生方をお迎えできます様にと心から願っております。

学苑だより



●先月8日(水)午後、Zoomで夏期実習の任命式が行われました。院長から任命が発表され、その後、同席した神学院運営委員の皆さまから、みことばや励ましのおことばをいただきました。任地は消息欄参照。

●夏期実習は2週遅れで8月16日(日)開始、6週間・一個所です。

●8月第一週はキリスト教教育(子ども)の集中講義、久し振りにクラスで、対面で行います。

●教室のプロジェクトが壊れたため、新機種を導入予定です。性能も向上、使いやすくなります。

●ベテルハウスは、様子を見ながら再開時期を探っています。お問い合わせは馬場姉まで。

●ボランティアの方々のご奉仕はしばらくお休みです。

●図書館は動き始めました。ご利用の方はご連絡ください。

●神学院祈り会は行いません。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。6月の会計報告をさせていただきます。

6月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥726,870
教会団体による「神学院献金」
¥469,070
合計¥1,195,940
その他の献金(一時・特別)
¥483,500

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「たとえ死の陰の谷を歩むとしても私はわざわいを恐れませぬ。あなたがともにおられますから。」
 (詩篇二三・3・4)

新型コロナウイルス感染症の拡大や豪雨水害の中で戦っておられる各教会に主の守りと祝福をお祈り申し上げます。

今年が残念ながら8月の夏期聖会は行われませんが、オンラインで開催されるとにキャン、ユースステーションに参加される青年たちには豊かな恵みが届けられるように祝福をお祈りいたします。

■本部

▽8月の本部業務について

各教会にすでにご案内の通り、毎週火曜日のみ、午後1時～4時まで限り業務を行っています。総務局職員が交代で1名常駐しています。

出版事業部は木曜日に交代で常駐者1名を置き行っています。

教材勢報告につきましては、Eメールでの添付送信に引き続きご協力ください。メールで送信される場合は改めての郵送は必要ありませんので、ご了承ください。

▽8月10日(月)～14日(金)の週は夏期休業期間となり、本部や出版事業部関係の業務はお休みとなりますのでご了承ください。

■国内教会局

▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバイザーにお申し出ください。

▽新型コロナウイルスの影響で開催中止を決定した聖会は次の通り。

◇北関東聖会は中止です。

◇東関東聖会は中止です。

◇林間聖会は中止です。

◇中京聖会は中止です。

◇北越聖会

長岡会場は中止です。

北陸会場(検討中)

日程 11月3日(火)

講師 梅田登志枝師

◇関西聖会は中止です。

◇中国聖会は中止です。

◇四国聖会は中止です。

◇九州聖会は中止です。

◇静岡聖会

日程 11月3日(火)

講師 岩上祝仁師

◇沖縄聖会(開催予定)

日程 11月3日(火)

講師 大兼久芳規師

会場 那覇教会

■世界宣教局

▽7月上旬、鹿島宣教師(夫妻(香港))は、理香師の日本永住権更新のため、コロナ水際対策が厳しい中でしたが、一時帰国されました。

▽富澤香宣教師、根廻恵子宣教師(ザンビア)が出発待機期間を利用して宣教祈禱会、家庭集会用でできる報告ビデオ(DVD、限定視聴のYouTube)を作成されました。ご希望の教会は広報担当、富士見台教会の野田禎牧師まで連絡ください。なお、両宣教師

はザンビアへの空路が再開され次第、ザンビアへ赴任されます。

■教育局

〈教育部・信徒教育課〉

▽信徒伝道者養成課程スクーリング

日程 9月1日(火)のみ

Zoomにて開催予定

講師 岩上敬人師による「パウロ書簡」の学び、説教演習担当 河村從彦師、川嶋直行師、野田禎師

〈青少年部・中高生課〉

▽第13回「とにキャン」

日程 8月10日(月)(Zoomを用いてのオンライン開催)

午前 中学生、午後 高校生の2グループに分ける。

参加費(Tシャツ代込み)で2千円・兄弟割りあり

講師 朝岡勝師(同盟・徳丸町教会牧師)

テーマ 「メダリスト」になら

ないものために」

〈青少年部・青年課〉

▽YSオンライン (Zoomを用いての開催)

日時 8月15日(土)午後3～5時

講師 松尾献師(KG九州地区主事)

テーマ 「Doubt!」 「ダウト!!」

「あたりまえ」を問う」

申込方法 教会配布のチラシに掲載されているQRコードを読み取

って、リンク先から申込をする形態です。

▽9月20日(日)～21日(月)にかけて予定されていた九州地区青年大会は中止。

▽11月22日(日)または23日(月)

にYSB第4回全国リトリートの開催を予定。

■聖宣神学院

▽夏期実習任地(8月16日(日)～9月27日(日))の6週間。カット内は任地。前後期共通。順不同・敬称略)

石川順(東京フリー・メソジスト)

桜ヶ丘)

田中利通(インマヌエル藤枝)

林眞光(蒲田シオン)

▽秋の入学審査は9月7日(月)。

出願締切は8月24日(月)です。

志願者が興されますようにお祈りください。

▽8月は神学院祈り会は行いません。

▽ベテルハウスは現在ご利用を控えていただいています。再開については検討中です。お問い合わせは学務課の馬場師まで。

消息報告



▽岩上輝雄先生(神戸教会引退牧師)は7月14日夕、地上での尊いお働きを終えて主の御許に召されました。享年86でした。葬儀は17日に神戸教会で行われました。

▽7月14日、久保光彦先生、せきな先生ご夫妻(和歌山教会)に第4子、ご長男「誉主在」さんが誕生されました。ご祝福ください。

▽渡辺芳子師(呉ベタニアホーム)の電話番号が変更になりました。新しい番号は080・8911・0473です。

祈りのネットワーク2020

ご活用ください!



コロナウイルス感染拡大の影響などがあり、例年より少し遅れてしまいましたが、今年も「祈りのネットワーク2020」をお届けすることができ感謝でした。

今回は特別な意味で「祈りのネットワーク」が用いられることを願っています。コロナウイルスのため、どこの教会でもいままでのような礼拝が持てないでおります。

オンラインや郵送などの手立てを用いて礼拝の欠けを補っています。が、膝を交えて祈ったり、じっくりとお話しを聞き、信仰の語らいをすることができません。きつと教会の交わりに渴いておられる方もありだと思います。

こんな時こそぜひ「祈りのネットワーク」を開いてお祈りください。先生方のお顔があり、祈りの課題が挙げられています。その背後にはたくさんの方々がいます。祈りは力です。全国の教会のために祈りましょう。

教報PDFパスワード 5210

新生宣教団 定価 一部110円(税込)

郵便振替 001107133609

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣
 発行所 東京都千代田区神田駿河台一〇〇Cビル イムマヌエル総合伝道団本部